

作部中の有志は造船所本社を包圍して労働歌に氣勢を擧げたるが、午後三時四十分委員の退出するを見て萬歳を三唱し委員を先頭に工場内に引揚げ會見顛末の報告を聴取し、愈々最後の決心を爲すに至れり。

一、工場管理案の決議

神戸の労働争議の傾向を通じて賀川豊彦氏の思想が如何に彼等罷工者を支配せるかに關しては既に屢々論述せるが、此の觀察を裏書する具體的事實は遂に呈示せられたり。七月十二日夜に於ける工場管理案の決議即ち之なりとす。

各部の要求拒絶に依り川崎争議團にては愈々持久戦に入るの方策を立てざるべからざるに至れるが最高幹部の意見區々に分れ、或者は此際徹底的の同盟休業を實行し會社側最後の判定を促がさんと主張し、或者は怠業の形式にて社長の歸朝迄持續すべしと唱へしが、最硬派たる電正會の幹部青柿氏等は此際怠業や同盟罷業の擧に出づるよりも寧ろ工場内の秩序を維持しつゝ、或意味の工場管理の形式に出で從來の八時間労働能率の工程は之を六時間半にて完成しつゝ、社長歸國まで工場内の権限を労働者の手中に掌握すること可なるべしと主張したるが、十一日夜各工作部各分工場の高幹部等が友愛會神戸聯合會本部樓上に會合し策戰方針を討議せる際にも、此の工場管理説最も多數を占め、或る者は

工場管理の擧に出づる時は労働時間の制定及び工場内の治安維持等は悉く労働者の権限に屬せしめ、會計方面の事務のみを會社側に譲るべしとの動議も出せるが、同夜の會合に於ては之が具體的の決定を見ず、結局前述の如く要求未提出の製罐工場の會見の結果に見て全工場一致の聯合要求を爲す事のみを決定し散會せるが、本工場各委員は翌十二日早朝工場内本部に集合協議して先づ試験的に之を本工場に於て實施すべしとて警備委員を選びて秩序維持に當らしめしは前章に記載せるが如し。

然るに同日提出の製罐工場要求は曩に各工作部が幾度か繰り返せると同一經過を以て同一の運命に陥り、各工場別職工要求は全部拒絶の厄に遭ひたれば同日夜電氣、造船、造機、製罐及兵庫分工場の實行委員五十餘名は兵庫美術俱樂部に集合し野倉萬治氏を座長に推して善後策に就き協議を行ひたり各委員は何れも其所見を腹藏なく述べて種々對抗策に關して凝議したるが依然工場管理を主張するもの最も多かりし爲め、遂に翌十三日全工場の聯合要求書を會社側に提出し該要求にして拒絶されし場合には愈々工場管理權を職工の手に收むべしとの事に決定し十二日午後十時之を發表せり。

宣言

川崎産業委員會は大正十年七月〇日より川崎造船所々屬の各工場の作業を管理することにいたしました。さきに私達は本分工場職工全員一萬七千餘人を代表して工場委員制外七箇條の要求を重役に提出しましたがこれに對し會社代表永留、山本兩重彼は社長不在を口實にして誠意ある回答をせず。今日まで引き延ばしました。元來私達の根本の動機は徒らに日本の産業を轉覆させる